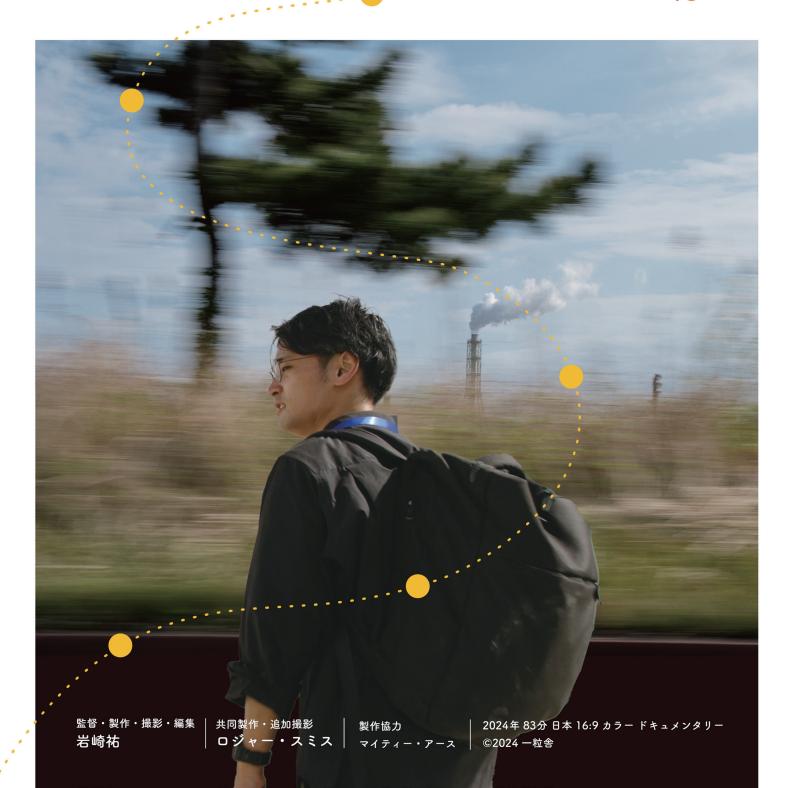
みちのく電話

電気をめぐる。旅にぼくらの未来をかけた東北から世界へ、





宮城の発電所めぐり× 原発事故の経験 グローバルサウスとのつながり× 仙台のエネルギー貧困対策

本作は、仙台を拠点に気候変動対策に取り組んできた若 者、鴫原(しぎはら)宏一朗の活動の軌跡を伝える。小 学生の時に福島・郡山で原発事故の影響を受けた彼は、 仙台の大学に進学後、被災者への補償が打ち切られてい く現実に疑問を抱き、エネルギーや貧困問題への関心を 深めていった。やがて世界の若者たちの間に広がった気 候運動に共鳴し、街頭で授業ストライキを始める。原発 事故後、宮城県内では気候変動に拍車をかける石炭火力 やパーム油発電、性急なメガソーラーなどの建設が相次 いだ。鴫原は現場で研究者や住民の声に耳を傾ける中で、 市民出資による地産地消のソーラー発電に希望を見出し ていく。

バングラデシュの同世代からのメッセージで、日本が海 外で進める石炭火力事業の実態を知った鴫原は、国境を 越えた運動に加わり、エジプトで開かれた国連気候変動 対策会議 COP27 を訪れる。一方、日本国内では電気代 が高騰し、鴫原は仙台の仲間と共にエネルギー貧困対策 としての再生可能エネルギーへの転換を訴え、食料支援 にも取り組む。日本の周縁としての「みちのく」と、多 くの日本人にとって馴染みの薄いグローバルサウスとい う「未知の国」をめぐる鴫原の活動は、気候危機という 地球規模の課題と、身近な生活の中にある切実な問題を 結びつけていく。カメラは、一人の若者の成長と、彼と 仲間たちが生み出す社会変化の兆しを映し出す。

みちのく 電記

監督・製作・撮影・編集:岩崎祐 共同製作・追加撮影:ロジャー・スミス

出演:鴫原宏一朗

2024年 / ドキュメンタリー / 83分 / 16:9 / カラー ©2024 一粒舎

michinokudenki.com





自主上映会 開催&募集中

お問合せ:『みちのく電記』上映会実行委員会 michinokudenki@gmail.com